

生後1歳6ヵ月の児を持つ父親が捉えた母親の健康に関する調査研究 ～産後の母親への戸惑いが解消する時期と要因～

神崎江利子*¹⁾、黒野智子¹⁾、村松美恵¹⁾

¹⁾ 聖隷クリストファー大学

【目的】生後1歳6ヵ月の児を持つ父親が捉えた妻である母親（以下、母親とする）の健康状態および母親の心身の変化に対する戸惑いと対応について調査し、明らかにすることを目的とする。

【方法】対象者：2018年9月から2019年3月に実施された静岡県A市の1歳6ヵ月児健康診査を受けた児の父親全員。方法：1歳6ヵ月児健康診査に来所した母親を介し父親への研究協力依頼書を配布。独自に作成した無記名自記質問票調査を用い、回収はWeb上で実施し、父親が捉えた母親の健康状態や母親の心身の変化に対する戸惑いと対応等について回答してもらった。

【結果】423名に調査協力依頼書を配布し33名より回答（回収率7.8%）を得た。

対象者の背景：20歳代24.2%、30歳代69.7%、40歳代6.1%。9割が正社員、子どもの出生順位は、はじめて57.6%、2人以上42.4%であった。一方、母親の年齢は20歳代27.3%、30歳代69.7%、40歳代3%であり、産後1年6ヵ月時点で4割が就労していた。**父親が捉えた母親の体調**について、「身体的に健康だが精神的には不調」18.2%、「身体的には不調だが、精神的には健康」18.2%、「身体的にも精神的にも不調」12.1%と約半数の父親が母親の体調に何らかの不調があると捉えており、それらは育児による影響と7割が答えていた。妻の体調を「健康である」と捉えた父親4名を除き、心身の症状28項目中、平均5.93項目（±4.2）であった。症状としては、肩こり（51.5%）、腰痛（48.5%）、疲労感（48.5%）、睡眠不足（42.4%）、妊娠前と比べて疲れやすい（36.4%）、肌荒れ（33.3%）、怒りやすい（30.3%）、イライラしている（30.0%）等であった。これらの症状は2016年に我々が調査した産後1年6ヶ月の母親が捉えた症状「肩こり、睡眠不足、腰痛、妊娠前と比べて疲れやすい」とほぼ一致していた。

母親の心身の変化に対する戸惑いと対応については、産後1年6ヵ月においても8割の父親が母親の心身の変化に戸惑いを感じ、母親が「イライラしている」「育児にストイックになっている」「睡眠不足で疲れているようにみえる」ことへの戸惑いを感じていた。母親の心身の健康を維持するために父親は「子どもと一緒に遊ぶ（93.9%）」「子どものおむつを替える（84.8%）」等の育児や「ごみを出す（84.8%）」「家の掃除・片づけをする（66.7%）」「洗濯をする（63.6%）」等の家事を実施すると共に「母親の肩をもんだりマッサージする（54.5%）」「母親が休憩する時間をつくる（54.5%）」「母親の悩みや不安を聞く（51.8%）」等、母親に直接関わる対応もしていた。特に「母親との2人の時間をつくる」と回答した父親は産後6ヵ月の時点では13.9%であったが、産後1年6ヵ月時点では33.3%に増加していた。

【考察】母親にとって、父親と会話する時間の確保と話を聞いてくれる父親の存在が非常に重要（伊藤, 2007）であり、「母親の悩みや不安を聞く」等のコミュニケーションを通し、夫婦お互いの理解が深まることで戸惑いを軽減することにつながるかと考える。また、父親が「母親との2人の時間をつくる」等の母親だけのための行動を起こすことで、夫婦の親密性を高め、夫婦の関係性の満足度が高くなることが考えられる。

倫理審査	■承認番号（18040 ） □該当しない	
利益相反	■なし □あり（ ）	
発表状況	種別	□著書 □論文 ■学会発表 □紀要 □その他（ ）
	年月日	2019年10月11日または12日（□確定 ■予定） エントリー中